

平成 13 年度

沼津工業高等専門学校動物実験委員会

自己点検・評価報告書

## ○今年度の主な活動

### 1) 第1回動物実験委員会

実施日：平成13年5月23日（水）

議題：1. 委員長の選出

委員の互選により■■■■教官が選出された。

2. 委員長による委員長代行の指名

委員長代行は■■■■教官が指名された。

3. 「委員会規則」と「動物実験に関する指針」の内容確認

委員会の活動内容が、動物実験における適切な指針の策定と運用であることを確認した。

4. 平成12年度自己点検・評価報告書の内容確認

### 2) 動物実験室空調環境整備経費の申請

「平成13年度教育研究基盤校費にかかる校長リーダーシップ経費」において、動物実験室空調環境整備経費を申請し、採択された。本報告書の末尾に、申請資料および実施報告書の写しを添付する。

### 3) 第2回動物実験委員会

実施期間：平成14年3月7日（木）～15日（金）

形式：メール会議

議題：1. 平成13年度動物実験報告書の確認

以下の実験について、実験の安全性、糞尿処理、動物の苦痛排除等が適切に行われたことを確認した。

(1) マウスの繁殖・飼育

期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日

対象動物：老化促進モデルマウス（SAMP1 および R1/Yag//Nct）

匹数：常時約200匹

(2) 茶及びキノコの抗IV型アレルギー作用の検定実験

期間：平成13年4月1日～平成14年3月31日

対象動物：ICR系マウス（日本SLCより購入）

匹数：150匹

(3) カテキン投与実験

期間：平成13年7月1日～平成14年1月31日

対象動物：ICR系マウス（日本SLCより購入）

匹数：30匹

2. 平成14年度自己点検報告書の作成

## ○平成 12 年度の問題点に対する今年度の対応

### 1) 動物飼育室の空調機の設備改善について

外部環境への配慮と、飼育動物の飼育環境および飼育者の作業環境改善のために、動物飼育設備の充実を推進する必要がある。使用が予想される実験動物および魚類の飼育が可能な施設の新設には、建設見積総額として約 3,300 万円が必要であることが昨年度の試算でわかった。この動物飼育施設案は高額であるため、当面の設備改善を目指し、「動物実験室空調環境整備経費」の申請を行う必要があるが、昨年自己点検評価において指摘されている。そこで、今年度は、前項の「2) 動物実験室空調環境整備経費の申請」で報告したように、「平成 13 年度教育研究基盤校費にかかる校長リーダーシップ経費」において、本経費を申請し、採択された。これにより、動物実験室に予備空調機が設置され、今後、現在稼動中の空調機の故障や停電による空調トラブルが発生した場合にも、予備空調機を稼動させることで室温変化による実験動物の死亡を回避することが可能となった。動物飼育施設に関しては、委員より、新施設の場所として生物実験棟地下の検討が提案されており、今後もその施設拡充を計る必要があるものと考えている。

### 2) 動物飼育と動物実験に関連する法律の確認について

昨年度、本校で行われている動物飼育と動物実験について、種々の関連法規に照らして問題がないかどうかを検討するため、「実験動物および動物実験に関する法規等 1998、(社)日本実験動物協会教育・認定専門委員会」等の資料を収集した。文部科学省研究振興局長の通知「大学等における実験動物の導入について」に添付された法律資料と合わせ、今後、その内容の確認を行っていく必要があることが指摘されている。本委員会委員が、この資料の閲覧をするための資料開示用ホームページは、今年度も運用してきたが、これら試料の内容の確認までは十分行うことができなかつたため、今後も引き続きこの作業を行うことが必要と思われる。

## C. 全学共同利用経費配分申請書

[平成13年度分・申請日・平成13・8・ ]

	「学科等」等名	動物実験委員会	
配分申請事項名	動物実験室空調環境整備経費		
配分申請額	400 千円		
目的・内容	<p>現在の動物飼育室は平成4年に新設され、沼津高専における動物実験に関する教育と研究に有効に利用された結果、これまでに19報の学術論文と20報の学会発表が行われている。</p> <p>しかしながら、飼育動物は温度の変化に敏感で、平成8年度の夏には、空調機の故障のため一晩で数十匹のマウスが死んだことがある。現在の、動物飼育室の空調機は、共同の室外機で5つの部屋を制御しているうちの1部屋分であるため、温度制御が不安定である。また、受変電設備点検のために毎年夏に、一日中停電になってしまい、温度管理に苦慮している。</p> <p>動物飼育室内に予備空調機を設置すれば、室内の温度変化を適切に捉えて温度調節することが可能となり、また、設備点検等のための停電時には発電機により電源を供給することで対処が可能となる。そこで、予備空調機の設置を要求する。</p>		
期待される効果	予備空調機を動物飼育室に設置することで、飼育室内の温度の安定の問題が解決するものと予想される。		
配分申請事項の内容実現後のメンテナンス担当者（代表者に○印を付す）	氏名	所属官職（役職名）	担当分担
	○ <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科助教授	動物飼育室の空調機の選定とメンテナンス
	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科講師	メンテナンスの補助・代行
	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科教授	メンテナンスの補助
	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科教授	メンテナンスの補助
	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	教養科教授	メンテナンスの補助
<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科技官	メンテナンスの補助	
<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	物質工学科技官	メンテナンスの補助	

(注) 各記載事項については要点を簡記し、詳細説明を要するときは別紙を添付する。

## 配分申請額内訳書 (配分対象区分 A・B・C 共通)

[平成13年度分・申請日・平成13・8・ ]

配分対象区分 A・C・ 及び B の b・c →	「学科等」等名 動物実験委員会			
配分対象区分 B →	教官名 (官職) <div style="background-color: black; width: 100px; height: 15px; margin: 5px 0;"></div> (助教授)			
経費区分	A - a . 学科等教育推進経費 A - b . 学科等教育改革経費  (C) . 全学共同利用経費		B - a . 研究活動活性化経費 B - b . 産学連携推進経費 B - c . 情報発信経費	
配分申請額	400 千円 (計画全体額		400 千円)	
経費全体額内訳・校費	計 画 全 体 額			左 の う ち の 申 請 額
	区 分	内 訳	金 額	
	設備 備品費	空調機	300 千円	300 千円
	消耗品費		0 千 円	0 千円
	そ の 他	空調機据付費	100 千円	100 千円
	合 計		400 千円	400 千円
参考とし て校費以 外に要す る経費	諸 謝 金		0 千円	
	職員旅費		0 千円	
	講師等 旅費		0 千円	
	合 計		0 千円	

(注1) 本内訳書は、各配分申請書に添付する。

(注2) 品名、仕様等にかかるカタログ等で参考となるものがあれば添付する。

教育研究基盤校費にかかる校長リーダーシップ経費被配分  
**実施状況報告書** (中間報告・最終報告)

[平成13年度分・報告日・平成14・1・31]

配分対象区分 A・C 及び B の b. c →	「学科等」等名	動物実験委員会
配分対象区分 B →	教官名 (官職)	( )
経費区分	A - a . 学科等教育推進経費 A - b . 学科等教育改革経費 ③ . 全学共同利用経費 B - a . 研究活動活性化経費 B - b . 産学連携推進経費 B - c . 情報発信経費	
課題等の 名称又は 配分申請 事項名	動物実験室空調環境整備経費	
現在までの 実施状 況	平成13年12月に、動物実験室の予備空調機の見積もりを業者に依頼し、本経費(40万円)での設置が可能である内容の報告を受けた。その後業者と工事日程を打ち合わせ、平成14年1月18日に、予備空調機の取り付けおよびその試運転を行って、正常に稼動することを確認した。	
現在までに 得られた 成果等	平成14年1月18日に、動物実験室に予備空調機が設置された。実験動物は、室温変化による影響を受けやすく、空調トラブルにより死亡することがこれまでもあった。しかし、今後、現在稼動中の空調機の故障や停電による空調トラブルが発生した場合にも、予備空調機を稼動させることで対応することが可能となった。	
今後の 予定	今回の予備空調機の設置により、動物実験室の空調トラブルに対応し、長期継続の動物実験を支障なく実施することが可能となった。予備空調機は、停電時への対応のため、コンセントより電源を供給する仕様とし、ガソリン発電機による電源の確保を考えている。緊急の際には、発電機の調達に手間取ることも予想されるため、今後、予備空調機用の発電機の購入を計画する予定である。また、動物実験室の飼育環境は、湿度の調整、臭気対策など現在も十分とは言えない面があるので、今後も引き続きその充実に努力する予定である。	
最終報告 書提出予 定時期	本報告書提出時期に同じ。	